

2024年度 第3回 豊岡市子ども・子育て会議 議事要旨

日時	2024年9月19日（木） 13時30分～15時32分	
場所	豊岡市役所 大会議室	
出席者（委員）	水落会長、曾根副会長、天野委員、一ノ尾委員、川島委員、渋谷委員、鈴木委員、田中委員、永田委員、西垣委員、吉岡委員	
（事務局）	永井部長、若森課長、佐伯参事、福田主幹、谷垣係長、吉本課長、鳥居所長、道下課長補佐、中村主幹、向原課長、河本参事、三輪参事、谷口参事、谷垣課長補佐、樋口主幹、寺坂課長（(株)名豊 大川）	
欠席者（委員）	上坂委員、大友委員、戸田委員、水田委員、三輪委員、森本委員	
会議次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事 (1) 報告 - ア 小中学生アンケート分析結果概要について - イ 若者アンケート分析結果概要について - ウ 高校生ワークショップ結果について (2) 協議 - ア こども計画骨子案について - イ 就学前教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策について (3) 意見交換 4 その他 (1) 次回の会議日程 (2) 今後の会議日程（予定） (3) その他 5 閉会	
配布資料	資料1	豊岡市子ども・子育て会議委員名簿
	資料2	小中学生アンケート分析結果概要
	資料3	若者アンケート分析結果概要
	資料4	高校生ワークショップ結果
	資料5－1	豊岡市こども計画骨子案
	資料5－2	こども計画戦略体系図案
	資料5－3	これまでからの経緯
	資料5－4	戦略体系図の参考となるアンケート調査結果
	資料6－1	人口推移の見込み
	資料6－2	就学前教育・保育の量の見込みと確保方策

資料 6－3	放課後児童クラブ（放課後児童健全育成事業）の量の見込みと確保方策
資料 6－4	地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策
参考資料 1	豊岡市子ども・子育て会議条例
参考資料 2	豊岡市子ども・子育て会議傍聴要綱
別添資料 1	豊岡市小中学生アンケート調査結果報告書
別添資料 2	豊岡市若者の意識に関するアンケート調査結果報告書

議事要旨

1	開会	開会の宣言（事務局）
2	会長あいさつ	会長あいさつ
3	議事	
	(1) 報告	
	事務局	ア 小中学生アンケート分析結果概要について 資料2
	会長	事務局からの説明に対し質問等はあるか。アンケートを取った結果の現状把握になる。結果を受けてどのようなことを考えるか意見をいただきたい。 こどもの自己肯定感の育ちという観点から考えると、対象年齢の低い段階から回答いただくのもいいと思う。どちらも必要な項目に回答ができるのか検討が必要。年次的にどのように変化していくのかを検討できたらと思う。小学生のワークショップをしながら、質的な部分についての回答を得られればいい。
	委員	大人になって住みたい場所の間に対して、豊岡に住みたい人が少ない。なぜ他のところに住みたいのかということ掘り下げてもいいと思う。
	会長	今の部分はとても大切なところ。この結果が出たときに課題となる部分が見えてきたので、そこからもう少し深堀をしながら分析をしていくとか追調査を今後していくなどの必要があると思う。
	事務局	問30において、豊岡に住みたいと回答した割合は19.1%、2割以下となっている。次回の調査ではさらに深堀りしたアンケートを取るなどを検討したい。
	会長	他の市町村でも、このような結果に対する回答の1つとして、大人になって帰りたいが働き場がなくて帰れないとか、そのようなことが課題になっているということがわかっている。追調査が実施できればいい。
	委員	以前、同じような質問のアンケートをしていると思うが比較はあるのか。
	事務局	現時点では把握していない。
	委員	同じような項目ではなくても類似した比較できる部分が存在するのならば丁寧に分析することは必要だと思う。
	事務局	小中学生が将来、地元に戻って来たいかどうかについては、高校生になるとまた意識が変わってくると思う。地方創生総合戦略を作る際の2015年に高校生に対し地元で就職希望のアンケート調査をしたことがあり、当時は43.8%が地元に残りたいという結果になった。今回の2割という結果がどうかかわからないが高校生になれば将来を考えることになると思う。アンケートの対象が、小中学生がいいのか高校生がいいのか考えた上で検討したい。
	委員	調査方法について、ウェブでの回答とあるが学校等に依頼して子どもたちが持っているタブレットで回答をしてもらったのか。このアンケートをするにあたり子どもたちへ先生の確認があるなどの説明があったのか。もしあったのであれば先生の目を気にしての回答があったのではないかな。
	会長	アンケートの回答方法に関しては、少なからず倫理的な配慮は行われているはず。無論、回答条件が若干異なる場合もあったかと思うが、問題ない範囲であったと思われる。

事務局 **イ 若者アンケート分析結果概要について**

資料 3

会長 事務局の説明に対し、何か、質問等があるか。

委員 保護者に対してアンケートでニーズ調査等は過去にもされていたが、直接子どもや当事者に問うアンケートは今後もこれをベースに施策を考えていく必要があると思う。年を経る毎に、また何かしらの施策を打つたびに当事者たちへの変化をモニタリングしていくことが必要。先程言われた5年後とは言わず、3年とかというペースで同世代を対象に調査をしていくということが、今後子ども子育て支援という同じ枠組みの中では、それを反映した部分が必要になってくると思う。

会長 年次的変化を丁寧に追いかけていく必要がある。

23ページのあなた自身についてという質問がある中で、自分一人で何かを決めることに不安があるという人が増えていると思う。自身の周りではどうか。

委員 以前こういったアンケートをしていて、前年度などの比較対象があれば、わかりやすくなる。このアンケートの結果だけでは、他の世代とのギャップがわかりづらい。この結果を見ると納得をしてしまう。実際に若者が普段感じる不安要素をある程度拾っている気もする。全体的にこれくらいの回答率になるのかとを感じる部分もある。前年度と比較してマイナス要素が大きくなっているとかプラス要素が大きくなっているといった比較が欲しいところではある。

会長 現状を捉えるということだけではなく過去との比較というのは今後もしていかなければならない。若者といっても若者の感覚は年々変化していくもの、そこも含めて今後の検討課題だと思う。

事務局 **ウ 高校生ワークショップ結果について**

資料 4

会長 事務局の説明に対し、何か、質問等があるか。

ワークショップに集まってきている方は23名ということで、ここに興味関心を持っている方の回答が中心となっている。豊岡市内にある高校で何かのきっかけづくりをしてもらって、授業の中で10年後の未来をどうしてほしいとか、その辺りの意見も聞いて集約した上で回答を今後収集しても良いと思う。また、共通するキーワードはどのように出しているのか。

事務局 それぞれの意見を付箋で貼っている。実際に単語を切り分けて物理的に数量の多いもの、語句と語句の繋がりが多いものを、AIを活用しながら集計をして、そこから主だったものを中央に配置している。テキストマイニングだ。

委員 高校生のワークショップの結果を見て、私たちと大きな違いがない。違う発想があればいいと思ったが、見る限り高齢者が納得するような意見が出て、もっと違う意見出てくるのかと思っていた。割と平凡。

会長 内にこもっている情報源だけが中心となって未来に夢があるまちづくりを考えていく場も当然考えられるので、外とのつながりを今後どうつくっていくのか、SNSではなく外の直接体験をできるような環境をどうつくっていくのか。

か。今後、豊岡市としてもどのようにしていくのか考えなければならないと思う。

委員 ワークショップで集まってくれた23人は、今後何か一緒になって発展していくことはあるのか。

事務局 今後この23人を集めて何かを行う予定はしていない。

委員 多くの意見交換を行ったと思うが単発で終わってしまうと、少し行政が絡んだ雑談という印象を持った。いきいきわくわくする瞬間、子どもたちにとって夢があるまち、日常会話で起こりえる会話だと思う。意見が出たときに実際にやってみようというところに発展すれば、今後さらに高校生が地域に対する思い入れが強くなると思う。自分たちで何か企画して実行するということができればよいと思う。

会長 プロジェクトを若者の中で考えてもらって、実際にその市に貢献している事例は他市でもあるので、そのようなことも継続的に検討していただきたい。

委員 子どもたちにとって夢があるまちのところに待機児童問題の解決とか子育てしやすいまち、農業体験について挙がっている。これが自然と子どもたちの中から出たのであれば凄いまちだと思うが、誘導があったのではないかと感じる場所がある。

事務局 ワークショップの実施にあたり、現計画の概要版の説明を少ししたが、内容の説明までは行ってはいない。勉強したことを書いてもらったのだと思う。

会長 報道等で待機児童の問題など取り上げられている今の時代や子育て子育ちなどもそうだが、メディアの方でもアップされていることを高校生も無意識の内に情報として持っていて、課題意識として出てくるというのはありがたいと思う。

委員 農業体験ということであがっているが、学校関係者に聞くと子どもたちが望むことをさせるということのようで、その中で選択肢として情報を提供することも必要だと思う。自主性の尊重はよいが、プラスしてアドバイスすることがあってもよいのでは。

会長 体験の入口の問題だと思う。子どもたちから出てきた意見で体験するというのがある一方で、豊岡市がこんな人材を育成するためにこんな体験が必要だという情報を提供して、体験の入口を作っていけないといけない。

(2) 協議

事務局 **ア こども計画骨子案について**

資料5-1～4

会長 事務局の説明に対し、何か、質問・意見があるか。

委員 上位目的の言葉がウェルビーイングでという使い方がおかしいのではないかと。ウェルビーイングは一般的に幸福や幸せという意味で、この日本語を当てはめたときに「すべての子どもが幸せで暮らしている」ウェルビーイングという言葉そのまま使うのであれば「ウェルビーイングな状態で～」というような、補う様な言葉を入れないと、言葉の定義としてはおかしい。他市町村との

差別化や豊岡市の独自の上位目的をつくるためにウェルビーイングという言葉を入れたのかもしれないが、このこども計画は子どものための計画なので、子どもたちや若者がわかりやすい言葉で書く必要がある。横文字でなくても、幸せや幸福などの日本語を使ってもいいと思う。

会長 先日、事務局ともウェルビーイングを無理に使わなくてもという議論をした。また「ウェルビーイングな状態で～」と言ってしまうとウェルビーイング自体の状態を意味してしまう部分もあるので、その辺りから考えると無理にこの言葉を使う必要がないと個人的には思う。言葉の定義や使い方、誰が見るのかということも含めて検討していきたい。

事務局 確かにウェルビーイングという言葉がどれだけ認知されているのかという懸念はある。こども家庭庁から送付される文書でも入っては来ている。5年間の計画期間で、どの程度、認知が進んでいくのかということはある。検討させていただく。

委員 ウェルビーイングという言葉を使うのであれば「ウェルビーイングで」ではなく「ウェルビーイングに」だと思う。

会長 「幸せに暮らしている」という言葉に置き換えるのであれば「に」でもよいと思う。

委員 ネットでウェルビーイングを検索してみたが、心身や社会的な面が満たされた状態、あるいは個人や社会のよい状態を意味する概念。「ウェルビーイングに暮らしている」というのが単なる幸せというのが、ここのウェルビーイングの中には社会的にも自分の内面的にも心身的にも両方とも、そういう意味を言葉に込めたいということを感じた。「で」を「に」に変えるだけで意味合いはわかってくる。

会長 身体だけではなく精神論、社会論を含めた新たな健康ということでウェルビーイングという捉え方をしている。その点を考えると「で」を「に」に変える方が伝わりやすいと思う。

委員 戦略目的で、これも言葉の問題だが、「子どもが笑顔でいきいきと育っている」となっている。こども計画の子どもの定義は一般的な子どもの定義と違っていて年齢を定義していない。一般的には18歳とか20歳までというような定義があるが、現実の問題として大学生はまだ親のすねをかじっているので経済的には自立していないから子どもと言える。大学を卒業してもまだ就職していない人がある。自分がまだ子どもだと思ったら子どもだという定義がこども基本法ではしている。かなり年齢層が高い人も子どもとしてターゲットにしている計画の様だ。子どもであれば「育っている」という表現でも問題はないと思うが、年齢が高めの方、いわゆる若者に該当する方に対して「育っている」という表現よりは「暮らしている」の方がいいのではないかな。

会長 こども基本法に則って考えていくと、子どもたちが笑顔でいきいきと育っているという言葉自体が適しているのか。今後、事務局と検討していく。

委員 若者の35ページの間35で、「現在の状況になったきっかけは」で、ひきこも

りになったきっかけとして一番多いのは妊娠・出産となっている。妊娠・出産をきっかけに社会、外に出ていくことが少なくなったということがアンケートからでてきている。保育所を経営しているが、保育園では2カ月や3カ月の子どもから見ているが、通常であれば育休に入った場合は0歳の子どもは家族が見ている。そうすると外に出にくい。豊岡市ではそのような傾向が強い。3割がそのようなになっているというのは何かしら課題があると思う。そのような時期に母親が1人で社会から孤立して家庭の中で見ているということが想像できる。保育園ではイベントをして園に来てもらうということをしているが、来ない家庭というのは育休の間、何もできない。ママ休という制度があるが数回来てもらうということしかできないので本当に母親の休日があるのか、そのようなことが閉塞感になっていると思う。今後の戦略に入れていくことができればよいと思う。

会長 58ページの戦略体系図で言うと0303、0304の部分に該当してくると思う。大事ななのはその中で具体的に何をするのか、今後検討しなければならない。例えば「～いる」「～ある」というように締めくくるという言葉、一方で「～ない」「～いない」という言葉があるから「～いる」「～ある」という言葉が存在する。なぜ「～ない」「～いない」のか、それを「～いる」「～ある」にするためには具体的にどうすべきなのか検討していくことが大事。内容に対して検討していくことが必要になる。

事務局 「～されている」「～している」という表記をしているが、行政が実施する場合は「～する」となる。行政以外の多様な方と一緒に取り組みたいということで、「～されている」「～している」と状態を表す表現をしている。

委員 豊岡の中高生にも大麻・麻薬というものが入ってきていると聞いた。仲間内でそのような物で繋がっている。孤立感というのは、いろいろなことに繋がっていく、さまざまな理由で、そのような人に具体的な施策ができればと思う。

会長 上位目的の「全ての」に意味が込められていると思いながら聞いた。
ほかにないか。

それでは、協議事項ア「こども計画骨子案について」は、これまでのご意見等、内容を踏まえて事務局で修正していくということとしてよろしいか。

全委員 異議なし。

会長 異議なしとする。次に移る。

事務局 **イ 就学前教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策について** 資料6－1～4

会長 質問等はあるか。

委員 101ページに、こども家庭センターのことが記載されているが国の政策もころころ変わって大変。ある意味、フィンランドのネウボラと近いものと聞いている。こども家庭センターに行けば妊娠してから就学前までの相談がすべて一体化してできるセンターと聞いている。豊岡市の場合は、この資料を見ると、

	こども未来部に1カ所作ると書いてあるが、具体的にわかっていることがあれば教えてほしい。
会長	こども家庭センターの詳細について、わかる範囲で説明いただきたい。もう1つは関連性について詳細を教えてほしい。
事務局	こども家庭センターについては、児童福祉と母子保健が一緒になって対応するという趣旨で制度改正により設けられた。新しくセンターという組織、建物を作るという訳ではなく、母子保健部門と児童福祉部門の一部の機能を1つにするというようなイメージ。子育て世代包括支援センターの機能と、虐待対応などを行う子ども家庭総合支援拠点の機能とを合わせ、こども家庭センターになることを想定している。
委員	宮津市の保育に関する委員会のアドバイザーをしているが、宮津市も新しくセンターを作るのは大変なので市役所内にある子育てに関する部署のままセンターに移行する形で行なっている。豊岡市も同様のやり方で良いと思う。今まで保健士が担っていた相談業務や社会福祉士が担うソーシャルワークの相談業務の双方を担えるようなセンターにしなければならない。また国のホームページを見ると例えばこども食堂や子育て広場、保育所や放課後児童クラブ、教育委員会、学校、障害児に関する支援、産前産後サポート、産後ケア、レスパイトサービス、医療機関、そのようなさまざまな支援につながることが書かれている。こども計画とのリンクも含めて、大切なセンターになるのではないかと思う。具体的な方策の中にこども家庭センターのあり方も盛り込んでいただけるとよいと思う。
会長	ほかにないか。 それでは、協議事項イ「就学前教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業の量の見込みと確保方策について」、原案どおりとしてよろしいか。
全委員	異議なし。
会長	異議なしとする。次に移る。
(3) 意見交換	
会長	時間が限られている中ではあるが、せっかくの機会なので、豊岡市のこども子育て支援について発言したいということがあればお願いする。
委員	多くのアンケート調査や実際に具体的な内容が見えてきたらモチベーションが上がってくると思うので、もう少し具体的に知りたいと思う。
会長	具体性と実現性ということで、ここまでのアンケートを取って現実的に結果もでてきている。これを受けて市として何をすべきなのかしっかりと検討していくことと2カ月に1回の会議ではなかなか議論が進まないところもあるのもう少し議論を増やせればと思う。
委員	今年から夏休みの短縮がなくなり2学期が9月1日から始業。夏休みの4日伸びた分を1学期で補填できないのか。また改めて給食のありがたさを感じた。

	委員 若者のアンケートで、結婚について、適当な相手に巡り合えるか不安を抱いているという結果が多く出ている。そういう居場所が少なくなっているのか。豊岡市としてイベントで若い人を集めているのか。自由にやっいい、そういう考えを持っているのか。 会長 30ページ問25、この部分について豊岡市での取り組みや施策などあればお願いします。 事務局 出合い機会創出事業として民間イベントをしたり、集ったところに助成をしたりしている。お見合い事業も推進している。 委員 こども計画で、全体の総合計画や、上位計画の地域福祉計画や今まで子ども子育て支援法に基づいて作られていた子ども子育て支援事業計画とどのような兼ね合いで進められていたのかわかりにくいところがあったが、本日の資料47ページにその位置づけが明確に記されている。65ページにもわかりやすく全体像が書かれている。最初に位置づけを考えて進めるというのは大事なこと。このまま進めて大過ないと拝見した。 会長 ほかにないか。この辺りで意見交換を終えたいと思う。
4 その他 (1) 次回の 会議日程 事務局 (2) 今後の 会議日程 (予定) 事務局 (3) その他	次回の開催は、10月7日（月）13時30分から、大会議室で開催する。 その後の予定は11月11日を始め、記載の予定で進める。
5 閉会	副会長あいさつ